

学校名 富士見小学校	1 学年
授業者氏名 山科 美里	
題材名『はごろく』を作って保育園の青組さんに歯のことを知ってもらおう！(生活科)	
主 眼 歯科衛生士による歯みがき指導や歯に関する絵本を読むなど、歯と口の健康について学習をしてきた子ども達が、獲得してきた知識を使って、保育園の年長さんに双六を作ることを通して、改めて歯にいいことを再確認し日頃の実践意欲を高めることができる。	
学習材 双六の台紙・今までの学習カードや学習掲示物	
成果 「歯について、楽しんで青組さんに知ってもらう“はごろく”を作ろう。」 ○ピンクのマス：【歯にいいこと】○マス進む。次のピンクのマスまで進める。 「(歯にいいこと)をした。(歯や口が)こうなった。○マスすすむ。」 ○青いマス：【歯に悪いこと】○マス戻る。一回やすみ。 「(歯に悪いこと)をした。(歯や口が)こうなった。○マスもどる。」 ○黄色マス：【歯に関するミッション】 「このマスにきたら、○○をする。」 *今まで学習してきたことを思い出しながら、考えていた。(一部の例↓) 「6才臼歯」「仕上げ磨き」「歯の溝」「30回噛む」など、既習した言葉や知恵が再確認できた。	

クッキーたべてむしばになったけれどちゃんといしゃにいった。3マスすすむ。	おかあさんがしあげみがきをしてくれた。3マスすすむ。	おかしをたべたあと、かならず、すぐに、はみがきして、むしばにならなかった。5マスすすむ。	カレーライスとラーメンをたべるときに、ほとんどかまないでたべた。1かいやすみ。	おかしをたべたあと、テレビにむちゅうになりはみがきしなかった。2マスもどる。	よくかまずたべたら、まちがえて、へらをかんだ。1かいやすみ。	このマスにきたら青ぐみさんにクイズをだす。「ミュータンスきは、はをとくす。○か×か」	このマスにきたらいままでにはいしゃにいったことがあるかきく	このマスにきたら30かいカチカチかんでよくかむれんしゅうをする
はをていねいに、きれいにみがいてママにほめられた。ゴールまでいく。	はをいつもよりじかんにかけてていねいにみがいた。つぎのピンクマスですすむ。	ちゃんと30かいかんだ。だえきがいっぱいできて、むしばにならない。3マスすすむ。	むしばになったのに、こわくはいしゃにいかなかった。スタートにもどる。	はぶらしをは1かげつのあいだ、かえなくて、しっかりみがけなかった。4マスもどる。	おかしをたべくさんたべすぎて、はがくろくなっちゃった。2マスもどる。	このマスにきたらみんなにくちをひろげて大きなこえで「い〜」っていう	このマスにきたらむしばになりやすいはを見つける	このマスにきたら6さいきゅうしがはえているかたしかめる
はみがきをして、いつもよりピカピカになって、すきな子にほめられた。5マスすすむ。	ひとくちのごはんを30かいかんで、つばがよくでた。7マスすすむ。	あさにプリンをたべて、フッ素いろのはぶらしこをつけてみがいた。2マスすすむ。	めんどろで、おくばをみがかなかった。3マスもどる。	ごはんを1かいしかみずのみにこみ、だえきがでず、むしばが5こもできた。2マスもどる。	あめをたべながらねてしまった。むしばになってしまう。2マスもどる。	このマスにきたらおうちの人にしあげみがきしてもらっている人に手をあげてもらう	このマスにきたらはがなんほんぬけたかみんなにはっぴょうする	このマスにきたらみんなはを見せておもしろいかおをする
よるにアイスをたべた。じぶんでみがいたあとに、ママにしあげみがきしてもらった。10マスすすむ。	よるごはんに、ししゃもをたべた。よくかんだので、あじがよくわかった。3マスすすむ。	「おくち ぼかーん」をしなかった。5マスすすむ。	グミをたべて、そのままにしていたら、はがとけた。3マスもどる。	よるはみがきをしないでねた。むしばになった。1マスもどる。	クッキーが、はのみぞにはいってよごれた。じかんがたってむしばになった。2マス	このマスにきたら「ばたからといそう」をみんなでする	このマスにきたらおうさまみがきを青くみさんにおしえる。	このマスにきたらなんかいむしばになったことがあるかおはなしする

課 題 双六の枠に子ども達を書くのは難しかったので、子ども達の考えたマスの文句をこちらで清書する必要があり時間がかかったが、「怖かったけど歯医者に行けた。3 マス進む」など、子ども達らしさが出ていて実際の生活の場でいかせそうだ。

【授業実践振り返りカード】 11月

学校名 富士見小学校	学年 2学年
授業者氏名 長田 文彰	
題材名 「ドライほおずきを味わってみよう」	
主 眼<フォーマット> 乳歯と永久歯の違いから、永久歯を大事にし、これから歯をしっかりと磨こうと願った子どもたちが、今、生活科で取り組んでいる「姿を変えたドライほおずき」に着目し、しっかりと噛んで食したり、甘くておいしいけれど糖分の多さに気づいたりすることを通して、自分たちの食生活には、いろいろなかたさや種類の食材があり、それらを選択しながら口にして生活していることに気づき、より口腔内環境を整えようとする事ができる。	
学習材 ・ドライほおずき&収穫した生のほおずき <ドライほおずき：乾かすことで甘みが増し、糖度が高くなっている。かたいので、噛むほど唾液が出る。> <生のほおずき：甘酸っぱくいて、ドライよりさっぱりしている。> ・糖分表（図式） <糖度が増す食材を食べた後は、早く磨けば虫歯の予防につながる。>	
成 果 *自分たちが育ててきた「食用ほおずき」を学習材にしたため、導入時から終末まで大変意欲的に取り組むことができた。<学習材の良さ> *意外と糖分に関係なく、堅さのあるものの噛み応え・歯を使って顎の強さや唾液を出す方向に向かった児童もいた。<前時の定着を生かしことができた>	
課 題 *最終的なねらいが「口腔内環境」にしたが、やはり、学習材である「食用ほおずき」が変化した「ドライほおずき」のおいしさ（糖分の多さ）に興味をもった。その瞬間が、最大の落とし所だと主事先生から学んだ。指導案に引っ張ってしまった感がある。	

【授業実践振り返りカード】11月

学校名 富士見小学校	3 学年
授業者氏名 野田 直美	
題材名 「 ひまわりの種で学校を町を元気にしよう 」	
主 眼 前回の試作で、栄養士の小林先生から、ヨーグルトにトッピングした食材(きなこ、はちみつ、ひまわりの種)が全て歯と口の健康にいい食材であることを教わった子どもたちが、歯に良い食材だけを使ってひまわりの種を食べる方法に着目し、ひまわりの種とはちみつときな粉を混ぜたものをヨーグルトにトッピングして試食し、チェック表に記入したり、感じたことを伝え合ったり、栄養士の小林先生から食べた感想を聞いたりすることを通して、歯と口の健康に良い食材を使うことの良さを感じ、ひまわりの種をおいしく食べる方法を見つけることができる。	
学習材 ・栄養士の小林先生がひまわりヨーグルト食べたときの感想(動画) ・ヨーグルト、きなこ、はちみつ、ひまわりの種が歯と口の健康にどのように良いのかの具体 ・本時の小林先生の食べた感想(実際に教室で)	
成 果 ・ヨーグルトやきな粉は、カルシウムがあり、歯と口の健康によいことが分かっていた子どもたちも、「はちみつ」は砂糖と同様に甘く、歯と口の健康になぜ良いのか半信半疑だった子どもが多かったので、栄養士の小林先生から、「はちみつは甘いけれど、砂糖と違って、虫歯菌が好きな甘さではないから、虫歯になりにくい」ということを教わり、「はちみつ」への見方考え方を広げることができた。 ・①ひまわりの種ときな粉→②はちみつを加えて→③ヨーグルトと一緒にという風に、子どもたちのアイデアで段階をおって試食したことで、②までだと歯に種やきな粉が詰まっているが、③でヨーグルトと一緒に食べることで、ヨーグルトが歯に詰まったものを流してくれる効果があることに気づくことができた。「全校や地域の方々に食べてもらうなら、ヨーグルトと一緒に食べてもらった方が、歯と口の健康にいいし、歯みがきもしやすそう」と、相手意識に立って話し合いを進める姿が見られた。 ・栄養士の小林先生が、献立のデザートをぶどうゼリーから、ひまわりの種のヨーグルトトッピングに変えたときの栄養価を円グラフで示してくださったことで、自分たちが考えているレシピのよさを実感することができた。	
課 題 ・ひまわりの種は食べた経験のない児童が多く、給食では出せないことが分かった。歯と口の健康にはよいレシピを考えることができたので、どのように全校や地域の人たちに発信していけるか、考えていきたい。	

【授業実践振り返りカード】 11月

学校名 富士見小学校	学年 4 学年
授業者氏名 高橋 準	
題材名 「歯と口の健康」(総合的な学習の時間)	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ(or 体験した・調査した)子どもたちが(既習や経験)、○○に着目し(健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、○○することを通して(本時の中核的な学習活動)、○○する力(育成する資質・能力)を培うことができる。	
主 眼 「歯と口の大切さを富士見小学校や富士見町に発信したい!」と願い、発信するイベントの企画や準備を進めてきた子どもたちが、イベントのターゲットである保護者に合わせた表現方法や言葉遣いに着目し、イベントのリハーサルをしたり、お客さん役の先生や保護者からフィードバックをもらったりすることを通して、相手の心に響く表現を考察することができる。	
学習材 (本時、子どもに提供する最大の情報:実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等) ・健康会本番と同様の相手(ターゲット・お客さん)役 ・現在進行形でのフィードバック(グーグルフォームでのアンケート)	
成 果 実際のお客さんとして、保護者や先生が来てくださったことで、やる気向上につながった。また、お客さん役からのフィードバックをもとに、「ビデオではなく実演にした方が伝わりそう」という相手を意識した表現に改善しようとする姿があった。	
課 題 お客さん役の人数が少ないため、手持ち無沙汰になる児童がいた。もっと人数が増えるように準備しておけばよかった。人数が多い方が、フィードバックの量も増えた。	

【授業実践振り返りカード】11月

学校名 富士見小学校	学年 5 学年
授業者氏名 赤堀万里子	
題材名 「お口の健康につながる豚汁を作ろう」	
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。	
主 眼 自分たちが育てたお米の収穫祭を計画している子どもたちが、収穫祭のメニューをお口の健康につながるものにするために、噛み応えや歯による栄養素、口腔ケアにつながることに着目して、具材や切り方を調べ、実際に食べ比べし、みんなで情報交換することを通して、どの切り方が良いか、ゆで時間はどれくらいが良いかを決めだすことができる。	
学習材 （本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） ○栄養士の先生からの話（子どもたちが考えた事へのアドバイスや給食のかみかみメニューでの工夫など） ○いろいろな切り方で切ったニンジン ○比較実験	
成 果 ○実際に、ゆで時間をかえたニンジンを食べ比べてみて、噛み応えがかなり変わることを実感し、噛み応えがあり、おいしく食べられる時間を実験結果から決めだしていた。 ○切り方による口の動き（噛み応え）が変わることを実感し、様々な具材の切り方を考えるのに生かすことができていた。 ○情報交換することで、自分たちの結果と比較しながら方向性を決めることができた。 また、自分たちが気付かなかったことに気づき、豚汁づくりの見通しを持つことに役立った。	
課 題 ○担任からの提案で始まった活動で、子どもたちの関心を持ったことから活動を始めることはできなかった。 ○収穫祭で終わりにしてしまうのではなく、自分たちの考えた豚汁づくりを広げてつながることができる、外部とのつながりに発展させられると思う。	

【授業実践振り返りカード】 11月

学校名	富士見小学校	学年	6 学年
授業者氏名 小林 幸也 大道 健人 山崎 健太郎			
題材名 「 自分は何タイプ? 」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ (or 体験した・調査した) 子どもたちが (既習や経験)、〇〇に着目し (健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、〇〇することを通して (本時の中核的な学習活動)、〇〇する力 (育成する資質・能力) を培うことができる。			
主 眼 バイトスキャンを用いて、噛みやすい献立とよく噛む献立の 2 食分の噛む回数や姿勢を計測した子どもたちが、自分の噛み方のタイプやその特徴に着目し、自分のタイプの良さや今後頑張る必要があることを学習することを通して、次回の測定や将来に向けて、自分の噛み方や食べる姿勢を改善しようとする態度を養うことができる。			
学習材 ・裕野先生からの分析データ			
成 果 ・バイトスキャンで計測したデータの分析を楽しく知らせてもらうことで、前向きな気持ちで自分の姿と向き合うことができた。 ・それぞれのタイプの特徴が細かく書いてあることで、一人一人が今後の目標を明確に立てることができた。			
課 題 ・準備に多くの時間を費やすため、時間対効果を熟考する必要がある。 ・目標を立てたことに対して、細かく振り返りを重ねながら次回の測定を迎えなければ、同じ結果が出てしまうかもしれない。			